

新年を迎えて したいこと

いいたいこと

— われら 20 代 —



え子 檀子 子子 子子 子子  
り恵 祥礼 美陽 と  
の利和 祥礼 富陽 と  
上崎 和多 井村 役田 井  
井大 大河 川別 前松

(アイウエオ順)

A 今日のテーマは一応「新年を迎えてしたいこと、いいたいこと」だそうですけれど、あまりそれにこだわらずに、どなたか口火を切ってどうぞ……。

久しぶりにお会いした、というところで B さん、どうでしょうか？ お若くてビチビチしていらっしゃるようだし……。(笑い)

B 私は今、公立の幼稚園に勤めてますけれど、勤め始めてしまうと忙しいっていうこともあるけれど、学校のことなんかどこかへとんじやったような気がします。もちろん現場で、学生時代に習ったこともうんと生きているとは思うんですけれどね。

何か、人間関係にしても、実際に子どもはどういうものかっていうことも、私は自分でクラスをもってみながら「初めて」というようなことばかりで、あっという間に今、六年目なんです。区の中では中堅どころぐらいなんです。ああ、

ここまできちゃったか、なんて思つて…

C 本当！　ここまできちゃったか、よね。

### 保育者一年生の悩み

A 幼稚園の先生たちつて、いいなこととか、したいことがあつて、子どもが片方について、自分は真中にいる。また職場の人間関係とか、幼稚園の教育に関する主義主張とかがある中で、本当にどういうところを“ここだ”と思つて拾ひ出して進めていくのかしら。

C “これだけは”みたいなもの？

A それほど強くなくても、幼稚園の先生とか、幼稚園とかつていうことをぬいて、いいこととかしたいこと、はありませんか。きつと、分離しきれずに入つてくると思ひますけれど…。

D 困っちゃう、運動会も終わったし…。

A 割と、満足して毎日すごしてるわけ？

D 満足してつて…。それは、いいこととか、したいことつてあるでしょ。でも入った当時は同じ職場の方たちのこと、わからなかったわけ、お互いに。それに児童学科つていうのは割合に社会に出ると肩身がせまいつていうあれが何となくあつたでしょ？　だから、こう、いいたいことがわかつてもらいにくいんじゃないかつていう先入観があつたの。それとか、うちの幼稚園では他の幼稚園ではとらないような子どもがいたり、そういう問題もぶつかつてきたりして、始めの内は二人だけでかたよつていたわけ。だけど半年たつて今はいいたいこともいえて、やろうと思へばこっちの気持ち次第でどうにかなるつていう感じがあるから、その辺のところでは大分気が楽になつたつていうところなの。

だけど、いい方つていうのはむずかし

いなあつていうことはこのごろ感じてるの。学生の時は、いいたいことをボンボンボンボンまっすぐいつてもうけとめてくれて、相手もわかるうとしてくれたつていうのがあつたけれど、今は、同僚に對しても、園長とか、お母さんたちに對してもそうだけど、いい方一つですごくあとの話の進み方が違つていうそれは感じているの。でも、いいたいこと、やりたいことつていうのは出せばどうにかなるし、また次が開けてくるんじゃないかつて、大分楽になつたと思つてます。

A そういうのをのりこえるところのプロセスでは、こうしてのりこえたつていうのがあるわけ？

E 私はまだのりこえてないけれど…のりこえきれなくてもね、私は私でしょ？　そういういい方、変かもしれないけれど、今まで一学期はとも苦しかったわけ。で…もうだめだ、とか思つたことが今は楽になつたの。それは

どうしてかって考えてみると何ていうのかしら、自分の私的な生活と幼稚園の生活を切りはなしてた自分があって、そうするとおかしなことになってたような気がする。

A そこ、大事じゃない？

C 切りはなすと苦しかったの？

E 切りはなしてたみたいなのね。そこんとこちょっと整理ができてないんだけれど……。

C たとえば、こうしなきゃ、とか、

こうあるべきとか……。

E う……ん、幼稚園で生きられなかったわけ、要するに。

C そうか、今のいい方すごいわかった！

E 今は、私は、相当程度、生きられるっていう実感があるからいられるの。そうするといろんなものが変わってきて自分の中でも変わってくるから……。

A 「わかるわーって」いうのが、私

あんまりわからない。(笑い)

C だからね、Eさんが、そこで自分が生きられるっていうのは、今まではその職場で緊張っていうのかな、今までの自分の生活とは全然違うし、子どもたちは受けもってるし、先生たちとの新しい人間関係は出てきてるし、その中で何か、自分が出せてないっていうのか、自分らしさでもっていられるんじゃないか。その分、だんだんと自分が、ありのままとまでいなくても、わりと自分らしくいられる、気安くいられるっていう、そんな感じじゃないかな。

E 気安くいられるから、苦しくてもその苦しさが充実したものになってくるっていう感じ。めいっても、めいり方が違ってくるっていうような……。

A 違ってくるって、言葉で「スッ」といつちゃうけど、何かありそうね。

F 私はね、子どもが幼稚園にくるのを楽しみにするでしょ、幼稚園に行くこと

たのしいから幼稚園に行きたいっていう感じ。それは私たちも同じで、幼稚園という職場を選んだのが、使命感をもったからとか、せねばならぬ、じゃなくて、子どもたちが好きで、自分が幼児教育を選んだんだから、毎日子どもたちと同じように、今日はどうやって生活しようかしらっていう楽しさをもって幼稚園に行きたいと思うわけね。

ところが、子どもと私の生活だけが幼稚園にあるわけじゃなくて、大人との交渉の生活が半分以上あるわけなのね。そうすると、そこにはいたくない、けど子どもとの生活、担任になってしまったところの責任、があるわけでしょ。だから、朝どういう気持ちになるかっていうと『ああ行かなくっちゃ』っていうことになる。(笑い)

だけど、行かなくちゃっていう気持ちじゃなくて、大人との関係も楽しくなると午前も午後も楽しくなると、今日は何

しようかなという子どもが楽しみにして幼稚園へ行くのと同じ気持ちになる。そこに、楽しい幼稚園生活っていうのが生まれてくるんじゃないかしら、そうすると、ああ今日はっていう楽しい気持ちで朝出かけられるっていうように、何か一つ変わってきた時に、全部が楽しい方向に変わっていくでしょ？

本当は、自分の生活と幼稚園の生活っていうのは、輪になって回転するわけじゃない？　ところが、分離したいっていう変な精神状態になった時はものすごくアンバランスなわけよ。だから、自分の生活は逃避になっちゃうわけね。でも、そうじゃないっていう状態も、そうであるっていう状態も両方経験してきたから、よくわかるっていうことなの。

G 私なんか聞いてて、ああ、年齢の違いがなくなって感じる。(笑い)

やっぱり幼稚園生活の経験の違い、それは必ずあるのよね。実際の幼稚園とい

うリズムと、自分の考えていた幼稚園というものと違うでしょ？　それが生活している内に、どっちが変わったっていうんじゃないくて、一つのものになっていったらいいでしょう。それが五年くらいたつと非常にマンネリになっちゃうわけ、そして、今度はどうしてそこから自分が逃げ出そうかっていうことを逆に考えちゃうの。私なんか五年目で職場を変わってまた最初からやり直して、最初はいろんなことがあって、それが、ああこんなものかな、でだんだんいやになっちゃうの。どうにかして自分が変わっていかなくちゃならないと思う、そういう何かこう、そこの中にいる年数、それによっても違うかなと思うんですけれど……。

A 一緒にはなれない、その生活の中から自分っていうものをとり出してみたい……みる、感じていうのがあるわよね。

幼稚園の生活って、そこで子どもと出

会っていれば、生き生きとされるでしょうけれど、一体になるっていう時期をへて、一体になっちゃうと、それがマンネリとかそういうことに見えてきて、今度は自分をそこからとり出してみようとか、つまり、自分っていうものがうんと出てくるっていうようなことかしら……。

私はどうやってきたか

A Hさんはいかがですか？

H ええ、やっぱりぬけ出すまでに一年ぐらいかかりました。つまり自分じゃなかったわけ、一年ぐらいは、そしてやっぱり、悟るっていうとおかしいけど、もうしょうがないなあと思って、これでするよりしょうがないと思いました。

そしてやり始めて、一年目のしょうがないと思ってやってた時は、何もまわりがよくならなかったの。だから、子どもと私の生活があつて、他の先生と私の生活があつて、で、さし障りのない部分だ

け通じ合っていて、かんじんな部分は全然通じ合っていないくて、そのかんじんな部分は自分流にやっていたわけ、そして一年ぐらゐん々としながらやって、二年目で聞き直って、……ここは大事だなあと思ったらしよがないから、傷つけまいとしながら婉曲に婉曲に話して、そしてある時は自分で強引にやっちゃって、そして認めてもらうようなやり方をしてきたの。

今は、こう、何ていうかどこかに遠慮しているところはあるけれど、まあ、いたいことはいえるようになってきて、ちょうどGさんと同じように、ごちゃごちゃしてきて、今度は、何とか自分が出たい、出れば、出て戻ってくればごちゃごちゃした部分が変わってくるんじゃないかなってという期待をもってるんです。

C でもその戻るっていうのは保育の方に戻るっていうこと？ 出ちゃったばなしじゃなくて、やっぱり最後には戻る

っていう……。

H ええ、だからやっぱり、本当に分離はできないけれど、何となく出れば何か違うものが得られるんじゃないかっていう、そんな気持ちです。

A やっぱり戻る、っていうことはどう？

C 私、二年目ぐらゐの時ね、いやでいやで、幼稚園なんかもういやだ、って思ってた大体私と同期の人もそうだったの。顔合わせると、求人欄を見てるっていうの。(笑い)

三年目ってよくいうけれど、三年目にはあまり感じなくて、四年目、五年目ぐらゐの時、何か、いやだないやだな、違うことしたいなっていう感じがして、本当に自分は保育に向いてるんだらうか、もっと違うことをやった方が自分が生き生きするんじゃないかって思い出したわけね。

それで、夏休みなんかには、思い切っ

て全然違うことをしてみたり、それから

何が自分の中で問題としていいかもわからなくてね。たとえば保育の集りなんかに行くと、問題点を出しましようなんていうと、"私は今こういうことで悩んでいます"なんて深刻な顔をしていってる人を見てもちっともそういうふうになれないわけね、そうすると、自分がやっていることがそれでいいみたいに見えるやうけど、自分の中では、それがいいとも思えないわけ。かといってそんなふうに、深刻に悩むところもないっていうのは、少し自分がおかしいのではないかみたいにして、友だちとあうと違うことをやりたいなんて話しあっていたのね。

そういう時期、何もやる気のない時に現職研究会があったわけ、たまたま。それはどういうわけか素直に行く気がしたので一年間やって、あのころは、それだけがつながつているくさりみたいだった。あのころとどうして変わっちゃったんだら

うと思うんだけど、何か少しずつ自分の中に、もう私が出て行く道はこれしかないんじゃないだろうか、というふうになってきつつあるみたいな感じなの。

それは特に、今度夏休みが終わって子どもたちと会うでしょ？ その時すぐく思ったの。夏休み中、ともかく私なんて本当に子どものことなんて忘れちゃってたし……。年少児でしょ？ 九月一日に大掃除で、何人かのお母さんが手伝いに来て、子どもを連れて来てるのに、何かとっさに名前が出て来ないの。(笑い)もうどうしようか、名簿をみなくちゃだめだなんていうほど……。 (笑い)

それぐらいなのに、その翌々日が始業式で、子どもたちと会っていると、やっぱり、いいなあ！ と思うものがあるわけね。その子たちと自分との間に……。だから、夏休み中はきれいに忘れていたけれど、何かはなれがたいっていうか、今はこれで定着していくんじゃないかっ

て思うの。

A ひところ、同級生のグループで話しあった時、みんな、お花やさんをしたとか、ケーキを作ることにこつてみたり、何か職業を変えたっていうことがすごくあったわね。遠い将来でまた戻っていうことはあるかもしれないけれど、何もずっとこのまま続けなきゃいけないことはないなんて話し合つて……。でも何となくこう子どもと一緒にいると、一方には憧れとかありながら、やらなきゃっていうんでやってる時期があるみたいね。でもそれを救ってる夏休みとか、やっぱりあるわけね。

C 夏休みがなかったらやれないわね。あれがあるから私たち生き生きできるのよ。私、一年目なんか、夏休み前はばててもうだめだーなんて思つてたでしょ？ それで夏休みが終わったとたんによろしく生き生きしちゃって、子どもたちとも元氣よく遊んじゃってね。だからも

う、夏休みってというのは先生にとって絶対必要だなんて物すごく感じた。

### 自分としてしたいこと

A ここまで進んできたところで、保育者として今こういう話をしている人たちが、「自分として何がしたい」というのが出てきたらおもしろいと思うんだけど、さっきちょっとお話ししたHさん、どうぞ。

H 性格的に、夏休みに子どもの名前なんかきれいさっぱりと忘れられる人と、逆にやっぱり忘れられない、長い夏休みをもてあますっていう人がいるわけです。私なんかどっちかっていうと、好きなことをしていても、何となくあ早く幼稚園が始まらないかかっていう気分になるのね。(「えらいい」) そんなえらいとか何とかいうんじゃないで、何となく落ちつかないのね。そうするとやっぱり、自分が生き生きとする生活を見つ

けられたらいい、何かこう、自分が生き生きとしたものを出せれば、子どもと会っている時に向うも生き生きとしたものを出してくるんじゃないかと思うの。だから、自分を忘れて夢中になれるものがほしいなって探してるところなんです。

A 今、探してるところ？

H 今は……そうね、冬はスキーのシーズンでしょ？ だから早く雪が降っていい山が見たいなあっていう感じ、いい景色見て一生懸命滑ってって思ってるの。

何か、こんなことじゃ悲しいななんて思ったりもするんだけれどね。何かもって生き生きとさせるものがでてきてもいいんじゃないのかなあって……。 (一同ウーン)

A そうなのよ。前は、ちょっと旅行すると本当に無邪気に楽しめて、生き生きできて、何か物を習って、自分が変わ

っていくのが楽しかったりしたの。でも今はもう、そういうのも憶くうっていか……。私も今探してるという状態なの。一体何なのかって。

G 私なんてどっちかっていうと、何かを見つけない見つけないっていいながら、幼稚園でいうものの中にひたりきっちゃってるでしょ。で、ある程度満足しちゃう、満足っていうのかしら……何となく毎日が楽しいわけよ、子どもの中にいれば。だから、離れたい離れたいと思いながら、ふみきれない、そういう自分を、また知ってるでしょ？ だからそれがいやなのね。一生懸命自分を自分でひっぱることができないのね。そういうことができる人だったらいいと思うの。

C でも、自分の生活っていうものがあるでしょ？ 学生の時はそういうものがないから、どこでもほいほい変わることかができると思うの。ところがある程度職業について収入を得ると、今度それが

なくなる生活はすぐきびしいなと思うわけね。そうするとすぐにはい、なんて変われない、やっぱり私はその辺のことがあると思うんだけれど……。

G そういうことじゃなくて、現在俸給をもらってるから……そして何となく減私奉公みたいなのにそこに対してつくさなきゃならないんじゃないか、という気持ちで、それこそ夏休みでもそういうことがいつも頭にあるから、だからこういうふうになっちゃうんじゃないかしら。(かえらいなし)

C たとえばね、違うやりたいことがあったとして花やさんへいったとすると、そうすると、今はきびしくとも給料をもらってる、それがゼロになって、ゼロからやらなければならぬわけでしょ？ やっぱしそこまで勇氣というか、自分を動かせたらいいなって出たけれど、その、今の生活を変えるってことが、こわいっていいのか、そういうのが私はある

の。

A 何かやっぱり年齢的なものもあるんじゃない？ もうここまできちゃって、生活をしてきちゃってるわけでしょ？

これがもう少し若かったら、やり直しも出直しもきくって感じがするけれど……。

C ウア!! 若かったら、なんて、よくいう——。

H 安定してるっていうんじゃないかしら、経済的にも精神的にも……。

G 私なんて逆に、ゼロになったらどんなにいいだろうと思う。

C いいだろうと思いつつできないの。やれる？ できないわ。私、やりたいたいと思っても……。

F それか、収入に魅力があるのか、幼稚園の生活に魅力があるのかっていうことはわからないと思うの。もし花やさんをしてもうかったら幼稚園の先生の収入なんか比べものにならないくらい、う

んともうかるわけでしょ？ (笑い) 幼稚園は一定なわけじゃない？

だから、その収入に魅力っていうか、

幼稚園の生活はもういやだと思ふことが年中あっても、その逆の楽しさもあるわけじゃない？ 私も夏休みは徹底して遊ぶ方だから本当に夜半まで遊ぶわけ。ふ

だんは睡眠をとることを考えたり、朝早いからっていちいち考えちゃうでしょ。でも夏休みは一切ないから……そういう生活に切りかえちゃうわけ。そして今度

九月になった時、また切りかわった時、子どもと出会った時の何ともいえないうれしさとか楽しさ、それが何かすてき

ないものがあると思うんです。

A でも、夏休みは遊んで、ふだんの生活とはガラッと変えて、っていつても、どこまで切り離せてるのかなって考えたことない？

F でもね、ふだんの生活っていうのは朝の八時から夕方の四時まで拘束され

てて、仕事の量は実際問題としてその時間じゃすまないほどあって、どうしても六時ごろまで仕事をしなきゃならないって、そういう生活でしょ？ でも夏

休みっていうのは全部自宅研修で、一週間なら一週間でどういふふうに使ってもいいわけよ。その間何か違う仕事をして

も、たとえばいけないことだけれど何かアルバイトか何かしてもいいわけじゃない？ やってみる、ということでは、だ

から全然違う生活ができると思うの。

A そこが全然違わないんじゃないかって……。

C あるの、“幼稚園の先生” っていうものの上にあるから。

A そこがね、変われたら、ご立派だと思ふの。

F やっぱりとつ払えないわけ？

C とつ払えないわね！

A なおかつ魅力があるっていうのはふしぎなものよ。



## 魅力のある職場

D 私、今も二年でやめようと思ってるけれどね。三年ぐらいいたら、すごい魅力のある職場でしょう？ やめられなくなっちゃうんじゃないかっていうことがこわいの。

今は、この九月に入ってから私は私本当に悩んだの、やめるか、もう一年やるかって。子どもはすごく可愛いから、きつとやめたって夏季保育にはくるだろうし、秋になって何かあったらくるだろうとかね。そしてらあと一年やったって同じだって考えて、だからずばっと、あと一年半やるって決めたの。そのあとは全然違う、もちろん、幼稚園じゃないかもしれないけれど、近くの道ばたで遊んでる子と遊んでるかもしれないけれど、でも何かそこでずしっといっちゃう自分がこわくてやめることにしたの。

A やめようっていうのはほかにした

いことがあるからでしょ？

G やっぱりそうだと思うわ。結局ぬけきれなくなつて、幼稚園くさいところがあくなくなくなつてわかんなくなつちゃうの。それでそれだけの世界で満足しちゃう。

F 幼稚園だけじゃない生活っていうのはいやだと思うの。

G だけど、ほかにあつてもやっぱりそうなのよ、そこにいるからには……。

C Bさんなんかどう？ 私なんかみてるよ、幼稚園部の仕事をやってくれるんだけど、大変な時間をとられるわけ、たとえば病気の先生のあとの処理とかいろいろなことをやってるの。

そうすると、自分のことなんかじゃなくて幼稚園のことを柱にして生きてるよに見えるの、それをききたいと思つて……。

B 私も一時期あつたの、いやでいやでぞーつとすつていう……。でも今

は、結婚しても、子どもができて、それこそ足腰たたくまで幼児教育でものをやりたいなつて思つてるの。よく冗談で友だちなんかにもいろいろ、もし幼稚園の先生くびになったら、用務員さんになりたいつて。そこでも子どもに接するわけだけど、今の状態見ると、公立の幼稚園で併設の学校の用務員さんがきてくれてちょこちょこつと用をしてくれているぐらいなの。そういう仕事を見ていると、私なら計画をたてて子どものためにこういうことをやって先生の手助けをしてこういうことをやりたいつて思うの、その園で、子どもの生活するその場で教師なら教師、用務員なら用務員で、どういうふうにかかわつていたらいいかっていうのが、自分なりに出てきたつていうか、もうそこでやるんだつていうことが、私の中では根をおろしたのね。だからこういうことをいうわけ。用務員じゃなきゃ事務職員でもいい、そこ

で幼稚園の仕事をやるからっていつて  
わけ。

私は組合の仕事なんかで忙しいし、そ  
のために自分の仕事はもって帰ってやっ  
たり、朝早くきてやったりしているの。

その組合の仕事は、私の担任のことり組  
の四十人の子どものためなんて、そこま  
で殊勝には結びついてはいないけれど、  
幼児教育のこっちの線をやっていく分には、この部分も必要なんだっていう感じ  
で動いてるわけ。だから、すごく忙しいし、夜半近く帰ってくることもあるけれど、そういう中でちょっと出てきた時間  
ていうのが、自分ではとても貴重だし、  
そこで、自分のしたいこと、たとえばバ  
スの中で本を読むこととか、映画を見に  
行くことにも使うの。この前なんかも、  
夏休みは忙しくて中国の出土品展が見ら  
れなかったの。それを見に一日だけ京都  
へ行って、京都でそれを見て、その傍に  
“冷しあめ”っていったかな、砂場の砂

に泥入れたみたいな飲み物なんだけどと  
ってもおいしいの、京都でそんなもの  
でぼけーっと一日すごして、そんなふう  
にも使うしね。それから、料理が不得意  
だからそんなのをやってみたりとか。

私、園の人に“あなた、そんなに忙し  
かったら、休みの日なんて何か会でもな  
ければ出ないでしょう”っていわれた  
の。でも私はちょっとカチンときて、  
“冗談じゃないわよ、家にいるんなら  
いで、やりたいこと山ほどあるわよ”っ  
ていったんだけれど……。だから、わり  
とそういうふうにつかず離れずみたい  
な、でも、意識して絶対離れたいからこ  
れをやるっていうんじゃないって、時間か  
あったら、ギリギリまで夏休みおわるま  
でとび回ってて、九月からバツときりか  
えるっていう感じなの。

でも自分の中でも、これが定着したな  
って感じたのは今年なの。というのは、  
今までだったら、未練がましいっていう  
か、九月がせまってくると心が重くなる  
わけ。今年は、それが、意外とゆったり  
考えられて、この辺が外にも出たのか、  
九月になって職員会議に出たら、前にす  
わった先生から“何か夏休みがいいこと  
あったんじゃない？”なんていわれちゃ  
って……。どこでどうあらわれたのか。  
今年の夏休みはそうだったの。あせら  
なかったし、おちついて子どもと会え  
し、会ってよかったなあって思ったし  
ね。

## 夏 休 み

C 私も今年はその思ったの、本当に。  
それに夏休みの自分の状態はやっぱり違  
うのね。たとえば研究会に行くでしょ、  
そうすると子どもが目の前にいないわ  
け。もちろん私は担任だから四十人の子  
どもはいるんだけど、そのだれだれち  
ゃんがああだこうだっということが頭に  
思いうかばないわけ。ただ自分ももっと

大きな「保育をしてる人」みたいな感じ  
しかないわけ。

それで、夏休みになると見方が大き  
なるっていうのか、自分がいて、自分がど  
ういうふうに生きるかっていうことがも  
のすごく保育にかかわってくるって考え  
るの。保育と自分と、もう一つつなぐも  
のは何かっていうと、せまくいえば日

本、大きいえは世界だし、それがどう  
いうふうに動いているかによって自分と  
いうものもあるし、日本の幼児教育もあ  
ると思うの。この三つを、どういうふう

にしてって考えるとどうしても中心は自  
分なの。この中心になる自分がどうして  
生きて行くかっていうところ、夏休みは  
そこが課題で、たえずそこをつぎつら  
れてて、「子どもの問題で困った問題」、  
なんていわれても出てこなかったわけ。

ところが二学期になって子どもと出あ  
うと、同じ種類の研究会に出ても、ガタ  
ッと違っちゃうわけ。たとえば二学期に

なって子どものようすを見てたり、こん  
な子どもたちにしたいたいなんて考えてる  
と、グループを作ってこんなことをやり  
たいなんて考えるようになるの。そうす  
ると、実際にどうしたらいいだろうとか、  
去年はどうだったろうとか、たちまち  
日々の保育の細かいことが「ペアッ」と  
頭にのぼってくるの。

夏休みの時と、子どもといる時では、  
自分の物を問題にする仕方が変わって  
るんだなあっていうことをすごく感じた  
の。

E 問題の出方は違うけど、結局同じ  
わけでしょ？「同じ」って言葉でいうと  
ただの「同じ」になっちゃうけど……。

(笑い)  
夏休みに自分の生き方って、今おっし  
やっただけれど、私もとてもそれを感じた  
の。私の場合は今年が初めてで、ともか  
く九月、始まるのがいやでね。……だけ  
ど、子どもを目の前にしたらそこでは違

ったわけ、こんな接し方が自分でできる  
んだろうかと思つたの、すごく楽に……  
。だけど何かが変わってきたっていう  
のは、夏休みにはいろいろあつて、私も  
子どものことなんて一度も考えなかつた  
のね。それにもかかわらず、今出てくる  
のは子どものことばかり、だけれども  
そこには、自分がいるの、そういう感じ  
がすごくして、これが充実感みたいなも  
のになるのかなって思うわけ。

### 楽しいということ

E 話が戻るけれど、Gさんが幼稚園  
が楽しいっておっしゃったでしょ？そ  
の「楽しい」の意味がわからないので、  
はっきりききたいんですけれど……。

G 別にどうってことないの。やっぱ  
り、私と幼稚園でものがすごく近くなっ  
ちゃってるってことかしらね。だから幼  
稚園に抵抗も感じないし、子どもともす  
つすつと行ききしちゃうし……そういう

時って楽しいでしょ？

**A** 積極的な楽しさと、つまらなくはない、子どもといれば子どもからボンボンと思いがけないこともできて、思わずキャーッと笑い声がでるといふように、それがもう日常的なことになっている自分ということなのか、それとも楽しいっていうことにもうちょっと積極的な意味があるのかしら。

**G** じゃないの。毎日のいろんなことがそんなに自分のしこりとして残ってるようなこともないし、平々凡々と楽しいわけね。だけでも、それではいけないとも思うの。やっぱり夏休みが終わると自分をみつめなおす時期があって、その時子どもを見ると、また子どもがよく見えてくる時期があるでしょ？ そうすると、あ、これじゃお互いになだ楽しいだけすぎちゃうなって思うわけ。だから一歩、私が出たい、そこにいったらまた新しい楽しみが出てくるんじゃないのか

なと思ひ、それがまた私をここまでつづけさせたんだと思うの。

**D** やっぱりちょっとわかんないわ。  
**A** 他の方は？ 楽しいっていうのは？ 幼稚園の生活の中、保育者として、自分としてと二つの立場からで……。

**H** 私は、理くつ抜きに笑えるっていうことが大人じゃ出てこない、それが出てくるっていうところが楽しい。それもあつし、見えてくる……自分が何かにかけて一生懸命やっていると、必ず見えてくるっていう時があるのね。その時に、はっと自分の存在を感じるそういう楽しさもあると思うの。

**A** たしかにあるわね。  
保育とか人間関係とか、人がかかわって動いていくものの中で、一生懸命にやると、その結果、まわりも変わって、自分も変わって、そして何かが見えてきたとき、生き生きできるように思えるの。

**B** 楽しいっていうと、私は全体的に

子どもという時間がとか、園でつとめてる時間が楽しいっていうふうにはとらえないの。私は、楽しいっていうとほんわかしたふんい気っていうか、子どもに「大きな大きなおいも」なんて読んであげて、ケラケラ笑ってこれはおもしろい本だなんて思う、そういう空気が楽しいのかななんて今ちょっと思ったんだけれど……。

私が子どもとかかわる時は、もちろん楽しいっていう言葉でいえば楽しいかもしれないけれど、それよりかもっと私はいこう考えてるの。子どもにもっとこういうことをしてほしい、つかませたいとか、ちょっと楽しいっていう言葉とは違うんだな。だから「楽しい園生活」「楽しい私と子どもの生活」「じゃなくて、もつときびしいの。そりゃ楽しいし、子どもたちからバンバン返ってくるのはおもしろいし、さつきHさんのおっしゃったようなことはうれしいけれど……。

A 単なる技法的なことじゃなくて、混とんと動いている時、ある時、向こう側からパッと返ってくる、それは成果っていうんじゃないで、そこで自分がハッとするような瞬間、その瞬間というのは前とは違う次元に自分がいることじゃないかしら。その違う自分が見えた時に生きがいとか何かそういうことを感じられる、生き生きできる瞬間があるんじゃないかしら。幼稚園の生活でそれをいうと、技法的なことに思われやすいけれど、そうじゃなくて。

D 自分をぶつけるわけでしょう。ぶつけるっていうことはすごく苦しいことで、楽しいこともあるけれど苦しい時間っていうのが大きいわけ。それで、すれ違った、すれ違ったっていうことの連続でしょ？ でも先に何かあると思えるの。だから私の感じでは楽しいよりももっとつらいわけ。

G 私、やっぱり何となく違うの。ほ

んわかと楽しいの。何が見えたとか何とかじゃなくて、逆に何か見えた時はいやなわけ。

D 自分が変わる可能性が出てくるから？

G 見ると、子どもから何かか返ってきたり、そうすると自分を見せられたように逆にハッとしたりのね、それはあんまり楽しいことではないの。

D だけれど、私は幼稚園で生きられるっていうのは、そこがあるからだと思う。ホワンホワンなんてしてたら死んじゃう。たしかにハッとしたり変わっていくっていうことはおそろしいけど、でも何かあるような気がする。

G それを、見つけていったり、それで自分の方向を教えられていくんだけれど、そういうことがだんだん少なくなっていくわけよね。何となくなれて、こっちのペースになっていくから、子どもとくい違いが少なくなっていくの。

## 苦しいこと

F 扱いなれちゃう、子どもが扱えるようになるわけよね。でも、その扱うところがいいことじゃないことが多いわけじゃない？

私も今彼女が苦しいのがわかる。去年人がもったクラスを私があつたの。するとその先生の色があるわけだけれど、でも私はその先生じゃないから全然違うわけじゃない？ それで一つ一つやるたびに「そうじゃなかったよ」とか、子どもにとってはささいなことなだけれど、こっちにしてみれば考えてやったことの反応がそれだとカチンとくるわけよ。でも私は私なりの考え方があって私の自己主張があるわけ。でもそこでは前の先生のやり方がいいとか、私のやり方がいいとか正しいとかいう問題じゃないでしょう？ 保育は……。より所はどこにもなくて自分にきびしく返ってくるわけ

ね。だからつらいって言うより、私は  
“わからない”っていう表現をずい分し  
たの。それは誰も教えてくれないし、教  
えてくれても技法だけだし、結局自分し  
かないって言うそういうつらさがあっ  
て、だけどその中で自分が生み出して  
くわけじゃない？

さっき生き方っておっしゃったけれ  
ど、自分が安穩と生きたいとか、楽をし  
て生きたいとか、苦しみたくなかった  
ということだったら無理だと思うの。だ  
けど、自分の生み出すこととか、向上し  
たいとか、そういう生き方をするんだっ  
たらその辛さをのりこえた時の楽しさが  
好きなわけよ。それは楽しいっていうよ  
りも自分が好きなんだと思うの。子ども  
と接して返ってきた喜びが好きなわけ。  
だからつらくても何とかして、自分のや  
り方を生み出すわけね。ところが、一年  
たって何だか扱いなれてくると、子ども  
が抵抗できないように扱っちゃうわけ、

今やりたくないと思うことでも、言葉か  
けをうまくすると子どもはごまかされる  
じゃない？しかしその子の最初にもっ  
ていた発想はつぶすわけね、私が。そう  
いうことをしていつちゃうと、また新た  
な疑問が出て苦しくなるわけ。今の苦し  
みと前の苦しみとはまた違うと思うの。  
でも今もっている苦しみをのりこえた時  
には、また楽しさがあると思うの。やっ  
ぱりそれが好きで、それが私の生き方だ  
と思う。

A そういう自分が好きっていうの  
は、すぐわかる。でもそういうところ  
で落ちついちゃうと何だかとても立派な  
ことに思えちゃう。(笑い)

F そんな立派な話じゃなくて、辛い  
時のことがわかるから彼女の苦しんでい  
るのもわかるのよ。

A 苦しいっていいながら、何かして  
るのよね。

C 翌日行けば、子どもがいるから

ね。

D 事務の仕事とちがってやっぱり人  
間相手だと、何か一つしても関係がつい  
ちやうでしょ。いやなの、自分が見えて  
きて……。自分を見るためにやってみ  
たいで。その時はつらいとか苦しいとか  
あるけど、ただキャアキャア喜べる感じ  
じゃなくて、この辺の底の方で喜べる喜  
び、というようなものはやっぱり他の仕  
事じゃだめだなんて思うの。

それは、対子どもだけじゃなくて、対  
大人のところだって、そこで変わらなけ  
れば対子どもの場合も変わらない。そう  
いうところまで到達するにはずい分かか  
ったけれど。

A 皆さんは毎日子どもの中にいて、  
自分をとりもどしやす、いい場所の中  
にいるなって思うんだけれど……。

D 子どもって、いつも生き生きして  
るもんじゃないのよ。

F 本当に、自分が最低の状態の時

に、子どもから返ってきたもので自分が生き生きとしたら最高だと思っけれど、まずめったにない。

C そう、絶対ない、もううるさくてね。

A じゃ、子どもがいるからってというのは？

F 子どもが来ちゃうわけ、いやでも。そしてかえって子どもの方がこちらの状態を敏感に反映するから、こっちが調子が悪いと逃げていなくなっちゃうとか……。 (笑い)

だから、毎日明日までに何とかしなきゃならないっていうので動くの。一つ何かを解決していかないと、保育もどうしようもなくなるだけなわけよ。

A じゃ、直接の動機ではなくても、すごく強いものにはなってるのね。

D くるからくるからって無理にここにこして自己嫌悪におちいたり……。

(笑い)

A ぶすっとしてもいいわけでしょう？

F ぶすっとしちゃうの、無意識に。

ある瞬間、子どもに話しかけられていない時はそういう顔をするわけ。そうするとその顔を見て、子どもは敏感だからわかるわけよ。体の調子が悪いとそれもすごく敏感で、意地悪みたいになるさくなるわね。頭がガンガンしてる時にガンガンやられるからまたガンガンしたり……。 (笑い)

C そして誰かに「あなたどうしたの？」変なこととして「なんていわれるとカーッとして、自分が何してるかわからなくなるの。それぐらい子どもたちの中に入ってるつらいわね。

F ふだんは怒らないようなことでも怒っちゃうの。いつもだったから見逃して、何かに転嫁してるようなことがこっちの神経のいら立ちで出ちゃうの。

A ていうことは、いつもはいかに自

分を出してないかっていうこと？

F そうじゃないの。調子よければ、自分が出てもいい方向にしてあげようっていうふうに出るの。

D ふだんはそれこそ大人の問ならブスッとし通していられるか、無理にニコニコしても通用するかって感じ……。でもそれじゃあだめだって思っちゃう。

A 結局おちつくところ、つらい、どんなにつらいことかかっていうことが再確認されちゃったみたいだけれど……。

(笑い)

### おわりに

A そろそろ時間になりますのが、初対面の方も多いいろいろ話してきて、何か感ずることもあったと思えます。一言ずつ最後に、そして文句なく今あなたがしたいことをつけ加えて回してください。 Gさんから。

G 感想？ 年とったなあ！

おききすると自分の通ってきた道もある。しかしあと戻りはできないし、だからこれから私はこうやっていかなくちやいけないのかなって、わからないながら、私としての道をさがさなければって思ってます。したいこともこれです。

**F** 感想、目下のところは運動会が十日で、しなくちやいけないことが一杯の中でここへとびこんできて、いろいろ話をきいて、やっぱり皆同じなんだなっていう自分だけじゃないなって素直な感じ。

— 今一番したいことは、大和路と木曾路を合わせて歩きたい!! (ウア— イイ—)

**D** 運動会は今日おわって、……やっぱり二年でやめるべきだっていう気がますます強くなったの。

— したいこと、遊べる人間、女になりたいと思うの。それから幼稚園だけが子どものいる所じゃないっていう感じがすこ

くあるの。幼稚園をやりますますそう思ったの。

**B** 私は、気楽にききましたけれど、出てきてよかったなって思ってるの。というのはいよいよ六年目で、私もどの辺からずっとこれが続けるっていう気になったのか、その気持ちを整理しなきゃと思ったの。そういう意味でも、今日みたいな原点にかえった話し合いはとてもよかったと思う。

— やりたいことは、土曜日の午後だし、ブラブラと歩きたいなあと思ってるの。

**E** 何か頭が混乱して……感想なんていうと何もいえないなっちゃうから、したいこと。

— すごく単純に、やりたいことをやりたい! 私、今苦しいっていったけれどすごい充実感もあるの。それはなぜかっていうと、自分が何も考えないでぶつけて返ってきたものだから、それを大切にしたいと思うの。それは別に子どもとか大

人とかかわけるものじゃないんです。それが今、自分にとって発見になりつつあるのでそれを大切にしたい。

— それからすごい腕白坊主が一人いるの、その子とどうやってあとすこしていかうかって考えてます。私も一年で幼稚園から離れるつもりですけど、子どもとは離れたくないっていう感じが今強くなっています。

— 明日京都に行くから、それを一生懸命やっつけてこようと思ってます。

**H** 私は、やりたいことは、すぐ雪がふるからスキーを一生懸命やる。一生懸命なんていやだな、やっぱりリラックスしてどんだんすべれるようになりたいなっていうこと。

— それから、今日出てみて、やっぱり元に戻ったみたいで何年たっても悩んで、悩み悩みきて、気分はおばあさんになっちゃったけれど、やっぱり悩むところは、新卒の人と変わらないなって感じ。



そしてこれからも悩みながらまたいくんじやないかしら。

C この会に参加しての感想はちょっと思いうかばないんだけど、今、子どもたちの生活、そればかりじゃなく全部なんだけれど、「本当のことは何なのか」ということがわからないの、それで、本当にそれは本当なのだろうかという感じでどうしていいかわからないの、自分が。さっき、したいことをしたいっておっしゃったけれど、私もそうなの。

でも、何が自分は本当にしたいのか、っていうことが一つ。それから本当にそれをした時に、ちょっと前までは本当にしたいことをしたら後悔しないなんて思ってたわけ。何か今は、こっちをしたいと思いますってても、これでやってしまったら後悔するのではないかというふうなもう一方の自分がある。自分がどこに動いていいかわからない、にっちもさっちもいかないの。そのいとぐちみたいな

もの、ちょっとでも動き出せるものをつかみたいって一つと、何が本当のことかわからなくなっていることの一つは、幼稚園なり保育所は、子どもの発達を保障して、私たちは子どもを守っていかなければならないとかいわれるわけだけれど、子どもたちの生活を守るっていうことは何を守ればいいのか、それから、子どもたちの発達を見ていくってというのは、その発達っていうものを私がどういうふうにとらえたいのかっていうその辺がすぐくわからないの。

いろいろな研究会に出ても、今の子どもはひどい状態におかれているから、私たちが何とかしなきゃいけないってことははいわれても、じゃ何をどうするかっていうことがわからない、違う研究会に出ても、今度は、大人側が子どもにおしつけているのではないかって考たり……、やっぱり自分の生き方なり何なりは社会に無関係ってことはありえない

し、真の子どもらしい姿とはどんなものだろうかということかわからない、つかみえてないっていう感じです。

さっき、保育は、あの先生が正しくて自分が正しくない、そういうものじゃないっておっしゃったけれど、本当にそうかわけね。だから研究会なんかできたことに対して、何かピタリしない、反発することはできても自分のやってきたことに対して問われるとつまっちゃう。だから六年間やってきたことをまとめる時間がほしいの。

A いろいろお話しあいをしていて、それぞれ、一人一人ちがう人なのに、やはり子どもと共にいる大人・保育者として共通のものがあるということ、けれどその反面、一人一人がその人として、一生懸命やっているのだということを感じました。今日は、せっかくの土曜日の午後でしたのに、どうもありがとうございました。

(一九七三・一〇・七)